

IMAGINE  
THE  
FUTURE.

## 附属大塚 学校だより

本校は、世界最高水準の知的障害教育を目指します。

## 新年度を迎えて 校長 柘植雅義

幼児児童生徒の皆さん、保護者の皆様方、ご入学、ご進級おめでとうございます。新しい仲間が増え、皆一つずつ学年が上がり、そして、本校の歴史がまた1年蓄積されました。

4月って、いいですね。桜が咲いて、風が心地よくて、新しい出会いがあつて、新しい動きが始まって、……。何か、ワクワク、ドキドキしてきます。さらに、4月（しがつ）の「し」は、幸せの「し」でもあります。だから、私は、4月が大好きです。

さて、私は、本校校長として6年目になります（最後の任期）。大学の仕事のため、附属大塚に勤務するのは週に何日しかありませんが、それにしてもこの5年間、附属大塚で子どもたちや職員らと過ごす時間が、何やらとても楽しく、面白く、豊かなものでした。

さて、本校に着任して早々、「附属大塚は、世界最高水準の知的障害教育を目指します。」と職員や保護者の皆様にお話しし、検討をして、教育憲章を掲げました。

## 教育憲章

本校は、世界最高水準の知的障害教育を目指します。  
そのために、以下の5つに全力で取り組んでいきます。

- 子供の主体性を大切にします
- 子供の人権を大切にします
- 学術研究に基づく確かな指導・支援を行います
- 成果を国内外に広く発信します
- 共生社会の実現にむけ貢献します

筑波大学附属大塚特別支援学校 2016年4月

日本の特別支援教育は、インクルーシブ教育システムという国連の近年の流れを踏まえて、これからさらなる大きな転換を迎えることになります。大きなチャレンジの始まりです。附属大塚への期待は、ますます大きくなっていくと思います。

また、いよいよ来年に迫ってきた、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、引き続き種々の教育活動を通じて応援していきます。  
最後になりましたが、本校の一層の充実発展に向けて、これまで同様、保護者の皆様方及び関係の皆様方の、本校の教育へのご理解やご協力をお願い申し上げます。



雨の日も風に日も玄関で子どもを迎える学校長

タブレット端末を使って「おはようございます」と挨拶する小学部児童。  
本校はICT機器の活用を推進していきます。

## 心のバリアフリー事業報告 ～共生社会の実現に向けて①～

本校では文部科学省の「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解（心のバリアフリー）の推進事業」を4年続けて受託し、持続可能なインクルーシブ交流モデルの構築を目指した研究に取り組んできました。本事業では、知的障害のある子ども達が行ったことを実感しやすい体験学習を展開できるスポーツや遊び、音楽や表現といった文化芸術的な活動を交流の手段とすることで、障害のある子ども達と障害のない子ども達が、対等な立場で楽しみ合える系統的発展的な交流学習プログラムの開発を目指してきました。

小学部・中学部・高等部では、「相手の良さ」を知り、「お互いを思いやり、尊重し合う」ことができる学びの場として、「目的意識を持って共に作り上げる交流の場」を大切にしています。例えば小学部では、附属小学校の児童が考えた活動で交流したり、附属駒場高校の生徒が大学の協力のもとに制作した「ミライの体育館®」プロジェクトのコンテンツで附属小と本校の児童がゲームを楽しんだりしています。中学部は、毎年附属高校の生徒有志と文化祭のステージ発表にエントリーし、合唱や合奏を発表しています。いつもと違う緊張感のなかで発表する経験は、本校生徒にとっても大きな自信となり、多くの高校生や保護者に褒められることで自尊感情の育ちにつながっています。

高等部は、附属坂戸高校の生徒と本校生徒が互いに考案したアダプテッドスポーツによる交流を年間3回行なっています。今年は正方形のコート4辺を自陣のゴールラインにし、ペアで手をつないでボールを蹴り合いながらゴールを守る「キックりん」というゲームを坂戸高校の生徒が考案しました。高校生は全員が参加できるゲームを考えるなかで相手の立場に立って障害理解を深め、本校生徒は対等な関係で相手に認められる経験によって自己肯定感が育っています。スポーツや文化的活動による継続的な交流では、様々な共有体験の積み重ねのなかで相互理解が深まりました。一方で設定された交流機会をきっかけにした生徒同士の関係は、休み時間などの特別な活動ではない日常生活を共有することでさらに深まる様子がみられました。高校生の振り返り授業では本校教員が参加しています。生徒のポジティブな経験を強化し、ネガティブな経験を修正することが適切な障害理解を深めているようでした。

（3月18日発行の日本教育新聞より抜粋 寄稿：本事業代表 高等部 石飛了一）



昨年度も1年間の実践をまとめ、全国350ヶ所の関係機関に報告しました。



高等部と附属坂戸との交流の様子。円陣を組んで「キックりん」の作戦会議です。



中学部は、附属高校「桐蔭祭」に参加し、合同ステージ発表を行いました。

## 12日（金）の学校運営説明会 10:00～幼小（会議室） 13:45～中高（体育館）

本校の学校運営について校長が説明しますので皆様ご出席ください。

なお、各部の保護者会は、学部からのお便りでご確認ください。



## 教職員異動のお知らせ

個人情報のためHPでは掲載はいたしません

## 今月の予定

- 8日(月) 始業式
- 9日(火) 入学式
- 11日(木) 給食開始
- 12日(金) 学校運営説明会  
各部・学級保護者会  
離任式
- 15日(月) 内科検診(高)
- 16日(火) 内科検診(小2～中)
- 17日(水) 発育測定(幼小)  
胸部X線(高2)
- 18日(木) 家庭訪問・面談開始  
消防写生会
- 19日(金) 発育測定スマイル(中)
- 22日(月) 運動会特別日課開始  
眼科検診
- 23日(火) 歯科検診
- 24日(水) ミニ避難訓練  
視力検査(中)
- 25日(木) 尿検査
- 26日(金) PTA総会  
視力検査(高)

※各部の予定は、各部の時間割をご覧ください。

## 「令和元年」 ～共生社会にの実現に向けて②～

「平成」から令和へと元号が変わる大きな時代の節目の中で本校も特別支援教育のさらなる深化と発展を考える1年でありたいと考えます。万葉集の梅の花の唄から選んだ「令和」には、「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という意味や、「厳しい冬の後には梅の花のような美しい花を、日本国民の一人一人が咲かせられるように」という願いが込められた元号であると説明されています。新元号「令和」は、個人の尊厳と多様性を尊重し、一人一人を大切にしながら共に生きる社会の実現を目指すこの時代を象徴する元号ではないでしょうか。

新しい学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」が強調されています。これは、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育もうというものです。学校教育法第30条2には、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能(a)を習得させると共に、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力(b)をその他の能力を育み、主体的に学習に取り組む態度(a)を養うことに、特に意を用いなければならないと規定されています。これら(abc)は「3つの資質・能力」と呼ばれ、全ての教育現場においてその育成を目指しています。本校でも同様に、習得したものを実際の生活の中で主体的に活用できる教育を大切にしています。